

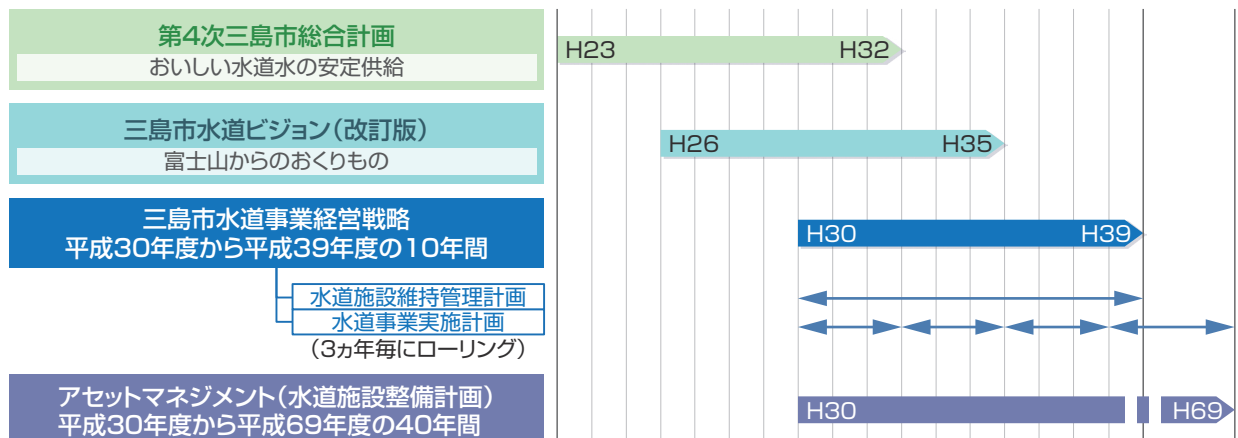
三島市水道事業経営戦略

2018→2027

経営戦略策定の趣旨

平成28年度に開催した三島市水道事業審議会において、将来の安定した水道事業運営と、管路施設を中心とした水道施設の適切な更新・耐震化を進めるために必要な水道料金水準の検討・審議が行われ、35年ぶりに水道料金が改定されました。

本経営戦略では、この水道料金改定の効果を最大限に高めるため、平成25年度に策定した「三島市水道ビジョン（改訂版）」を基に、中長期的な視点から水道経営と施設整備計画の基本方針を定めるとともに、経営の健全化と経営基盤の強化を図り、持続可能な水道事業運営を目指した、具体的な投資と財源の計画を策定します。

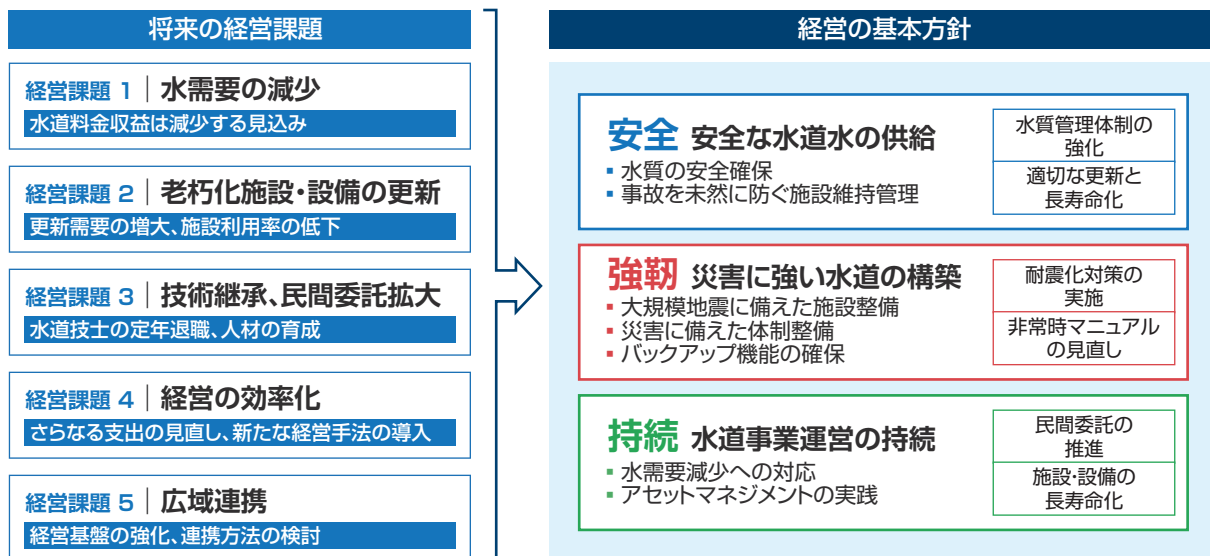


「三島市水道事業経営戦略」の計画期間は平成30年度から平成39年度(2027年度)までの10年間とします。ただし、本経営戦略の策定にあたり、平成30～69年度までの40年間の「アセットマネジメント(水道施設整備計画)」を同時策定し、本計画期間中の施設整備はこれを基に策定したものであり、長期にわたる安定した水道事業経営を見据えた内容としています。

経営の基本方針

三島市水道事業は、水需要の減少による将来的な給水収益の減少、老朽化施設・設備の増加による更新投資の増加、熟練職員の退職に備えた技術継承等の経営課題を抱え、民間委託拡大や広域連携等の検討を進めながら、さらなる経営の効率化に努めて参ります。

経営の基本方針として、「安全」、「強靱」、「持続」を掲げ、日常および災害等の非常時の体制強化を図るとともに、持続可能な経営基盤による安定した水道事業運営を目指します。



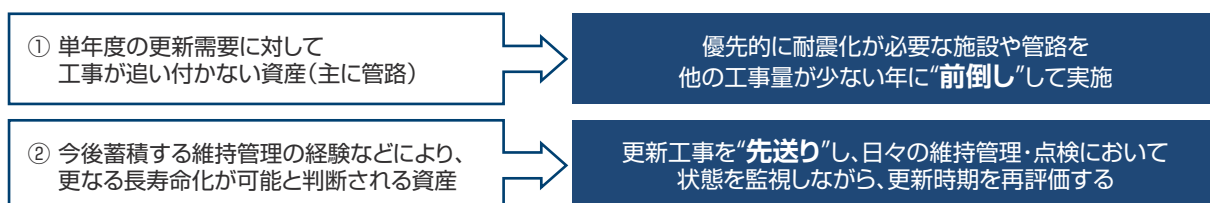
更新需要の見通し

「三島市水道ビジョン（改訂版）」において、本市の全ての水道施設の更新需要を約410億円と試算しています。その内訳は、構造物・設備の更新需要が約70億円、管路施設の更新需要が約340億円となっています。これらを法定耐用年数通りに更新するための財源確保は難しく、また、法定耐用年数を超過しても健全に使用できる場合もあるため、施設や設備の重要度や使用状況に応じた適切な維持管理を実施しながら、使用年数の再評価や、機能強化、修繕等による長寿命化を図り、経営への影響を最小限に抑える計画としています。

更新需要の平準化

管路施設の更新年数は、管種の耐久度等から40～100年と設定し、施設や設備については、適切な点検や修繕により日々の状態を確認しながら、それぞれの更新時期を判断することで長寿命化を図ります。

また、特定の期間に更新工事が集中し、経営や組織体制に過度な負担とならないよう、以下の方針で事業を平準化します。



投資試算

計画期間中の主な整備計画の概要は以下の通りです。耐震化事業については、補強検討や耐震性の再評価の結果によって整備内容が決定します。

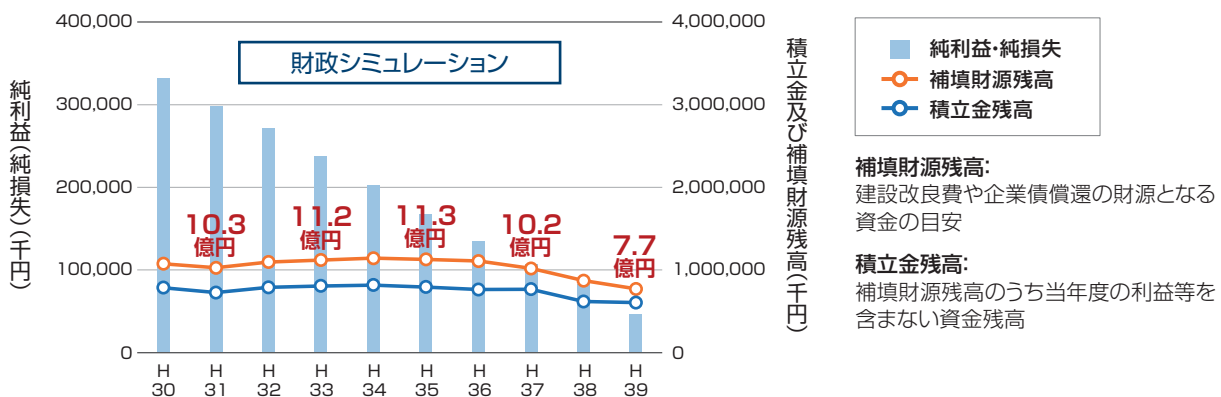
施設名称	整備内容	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
伊豆島田浄水場 末広配水場 水源区配水場 中区配水場 高区配水場	伊豆島田系 安全	中央監視装置									
		取水設備、電気設備更新									
		監視充実									
		監視充実 強靱			耐震化対策						電気設備更新
		監視充実 強靱			耐震化対策						電気設備更新
北沢低区配水場	駿豆系 安全 強靱					耐震化対策				電気設備更新	
箱根系配水場	箱根系 強靱					耐震化対策					
山中新田取水場 山中新田配水場	簡水 安全 強靱	取水施設更新								監視充実 耐震化対策	
管路施設	全域 安全 強靱					バックアップルートの確保 管路の着実な更新、耐震化					

計画期間中の主な施設整備計画: 77.8億円(平成30年度~平成39年度)

財源試算

計画期間10年間の財政シミュレーションによると、水道料金収益の減少に伴い純利益は年々減少する見込みとなりますが、期間中は黒字を維持したまま推移する見通しです。また、水道事業経営の資金となる補填財源残高および積立金残高については、平成39年度は、補填財源残高が約7.7億円(うち積立金は約6.0億円)となる見通しで、目標として定めている計画期間中の建設改良費の年平均額7.8億円をわずかに下回るため、平成38~39年頃に料金改定の審議が必要となると想定されます。

本財政シミュレーションにおいては、計画期間中の財政状況は健全な状態を維持できる見通しですが、県営駿豆水道の施設更新計画など外的な要因の影響の可能性もあり、定期的な財政見通しの検証を行う必要があります。



経営目標の設定

計画期間中の経営目標を以下の通り設定しました。財政状況を健全に保ちながら、老朽管更新による管路施設の耐震化、主要施設の耐震化を優先的に実施します。

経営目標1 損益の目標	単年度黒字を維持
経営目標2 資金収支の目標	補填財源7.8億円を確保
経営目標3 老朽管の更新（耐震化）	年間6kmの老朽管を更新
経営目標4 主要施設の耐震化	配水池耐震化率97%

今後の取組み

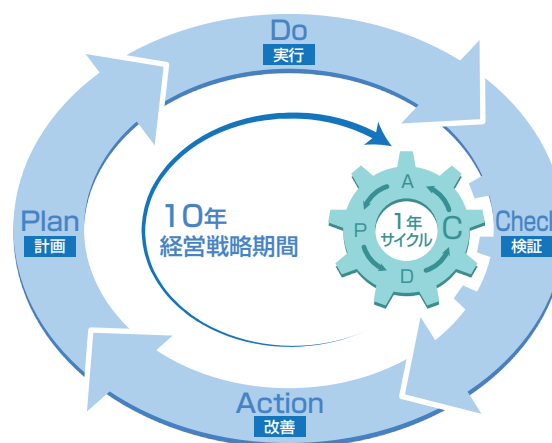
投資の合理化、経常経費の見直しは計画期間中に限らず、継続的な取り組みとして実施していきます。また、新制度の活用や広域連携等、様々な経営改善に向けた調査・研究に取り組み、三島市にとって最適な経営手法を検討します。

 投資の合理化 1. 施設規模、施設配置などの適正化 2. アセットマネジメントによる投資費用の縮減 3. 耐久性の高い管材料等の使用	 経常経費の見直し 1. 民間活用の推進 2. 有収率の向上	 その他の取組み 1. 工事発注方式（PFI・DBO） 2. 環境対策 3. 広域連携 4. 職員の能力向上
---	---	---

進捗管理

「水道事業経営戦略」、「アセットマネジメント（水道施設整備計画）」、「水道施設維持管理計画」、「水道事業実施計画」を各々連携させ、計画的に事業を行い、三島市議会での審議、監査委員による監査のほか、「三島市水道事業審議会」における1年サイクルの業務評価に加え、3年サイクルの中期業務評価を組み合わせることで、実効性のあるPDCAサイクルを構築します。

水道事業を取り巻く環境や社会ニーズに柔軟に対応しながら、水道事業を健全な状態に維持することを目的として、適切な評価に基づく改善行動を繰り返していくことにより、健全な水道事業運営を実現します。



PDCAサイクルによる業務評価と改善行動のイメージ

平成30年3月

三島市都市基盤部水道課

〒411-0858 静岡県三島市中央町5番5号
TEL 055 (983) 2657